

## 東京 iCDC 運営委員会（第 5 回）議事録

日時：令和 3 年 3 月 3 0 日（火） 1 7 時 3 0 分～1 8 時 1 5 分

場所：第 1 本庁舎 4 2 階特別会議室 A

出席委員：賀来委員長、脇田委員（web）、館田委員（web）、大曲副委員長（web）、奈良委員（web）、猪口委員（web）、小竹委員、山川委員

出席委員（都）：梶原委員、小林委員、吉村憲彦委員、田中委員、雲田委員、矢沢委員、成田委員、高橋博則委員、杉下委員、加倉井委員、吉村和久委員

その他出席者：森村尚登氏（web）

オブザーバー：吉田真紀子氏（web）、高橋千香氏（web）

### 議事 東京 iCDC の活動状況について

（東京都より）

- ・ 資料の説明

（賀来委員長）

- ・ 人材育成チームが立ち上がり、8 つのチームとなった。タスクフォースとともに同時並行で進めていく。

（賀来委員長）

- ・ 大阪の感染者多い状況で、まん延防止等重点措置の要請の方向も伺っている。
- ・ 東京都の感染を再拡大しないように、情報・意見を共有しながら、iCDC として機能強化に向けて進めて行く。
- ・ ボードメンバーの中にボードリーダー設けて、リーダー会議も開き、連携を進めながら、全体として感染対策に取り組んでいくという方向性で考えている。

（脇田委員）

- ・ 施設の定期検査、積極的疫学調査など、感染源の調査の進捗はいかがか。

（杉下委員）

- ・ 深堀調査は、国からは 1 都 3 県の保健所で行うよう要請されており、区部から 1 つ、多摩から 1 つということで内閣官房と調整している。モニタリングは、国でバスタ新宿にて行うほか、各区市と協力し進める。繁華街のモニタリングを実施していく。

（脇田委員）

- ・ 感染源がどこにあるのか追求していく必要がある。

- ・ モニタリング検査、駅等でやっても意味がないのではという意見もあるため、繁華街でのモニタリングの効果データを示す成果に期待している。

(梶原委員)

- ・ 特別養護老人ホーム、介護付き有料老人ホームなど、唾液を使ったモニタリングをやっている。各区市町村に補助しているため、高齢者施設などもやっていく。
- ・ 高齢者施設、病院、特に、精神、療養型病院などハイリスクグループを中心に行う。

(館田委員)

- ・ 第3波のような大きな波を作らないことが共通の目標としてある。
- ・ 早め早めの対策を、どのタイミングで出していくか検討する必要がある。
- ・ 国等との連携の仕組みも必要になる。
- ・ 医療現場が逼迫する前に、早めに対策を打ち出すタイミングがある。それをどう共有していくのが大事になる。

(賀来委員長)

- ・ 急拡大しないための対応を政府と情報共有しながらやるのが大切になる。

(脇田委員)

- ・ 東京都のリスク評価は、モニタリング会議で行っており、感染状況をモニタリング会議で見て、リスク管理をしていく必要がある。
- ・ iCDC の立ち位置、モニタリング会議との関係性はいかがか。

(加倉井委員)

- ・ iCDC はエビデンスに基づいた政策提言を知事へ伝えるというもので、モニタリング会議でもそうした場面があった。そういったものをモニタリング会議の中でもやっていくというのが、今の立ち位置と理解している。

(賀来委員長)

- ・ モニタリングの分析というのは、共同でディスカッションしながら進んでいくこともある。これまでモニタリングの分析に携わってきた先生方とも連携しながら、科学的なエビデンスも含めて共有していきたい。

(梶原委員)

- ・ じわじわと感染者数が上がってきている。西田先生の人流のデータからも 22 時以降の

夜間人口がのびていくのが分かっている。現在の関西が東京の 2 週間後となるのではないか。

- ・ どのタイミングで対策を打つか、行政として対策をどうするか。
- ・ 飲食店の時間短縮、休業要請等、対策が限られてきているが、時短要請以外でどのような対策が想定されるか、先生方の意見をうかがいたい。

(脇田委員)

- ・ 飲食の場というのは、感染拡大の場で間違いない。そこへの対策が必要となる。
- ・ 制限していくというのは必要であるが、それだけでは、ある程度しか抑えられない。そのため、深掘の調査が必要になる。
- ・ 昼カラオケのクラスター、他県では、高齢者の昼カラなどが原因であったが、注意喚起をしたところ、昼カラオケのクラスターはなくなった。
- ・ 感染源がどこにあるのかというのを掴んでいくことが重要になる。
- ・ 最近では、部活動のクラスター、外国人コミュニティ、工事現場が感染源となっている傾向がある。どうやってアプローチしていくかが課題となる。

(館田委員)

- ・ アラート効果を上手く使いながら、いかに感染者数を 100 台、200 台前後に落とすか検討していく。

(賀来委員長)

- ・ 人が集まるところを集中的にお願いし、人数制限、リモート、出勤抑制など、広域にわたって動きを抑制できる方法論があればよい。
- ・ 夜だけではない昼の対応などもふくめ方向性を考えていく。